

1.2 非認知能力の衝撃！学力だけでは測れない力

(1) 5つの羅針盤：教育実践の道しるべ

① 5つの羅針盤：教育実践の道しるべ

この5つの羅針盤は、子どもの「心の成長」を日々の教育に具体化する指針です。

従来の教育が教科中心でしたが、これからは羅針盤を基に主体的に学び挑戦し成長する力の育成・その活用により教育は意図的になり、成長のサポートが可能となります。

ア 授業の「意図」が明確になる

授業中の子どもの姿を羅針盤に重ねることで、その場の学びの意味をすぐに把握できます。

- 子どもの発言や行動を「どの羅針盤に結ぶか」と即座に判断できる。
- (例)話し合いが止まった時、「ともに創る対話」を伸ばす場だと捉えられる。
- 授業中の小さなやり取りも、教育目標に沿って整理でき、方向性が一貫する。

イ 小さな成長を見逃さない

日常生活のささいな行動も、羅針盤の視点で「成長の証」として捉えられます。

- 教師が休み時間や生活の行動も、羅針盤を基準に見直せる。
- (例)下級生への声かけ=「思いやりや信頼の芽」として記録できる。
- 教師は些細な行動を「育ちの証」として捉え、成長を実感できる。

ウ 日々の教育が可視化される

- 羅針盤の共通言語を使うことで、教育の目標や成果が明確になり共有しやすくなります。
- 「何を育むか」を羅針盤の言葉で示すと、教職員が同じ方向を共有できる。
- 保護者や子どもも理解しやすく、家庭と学校が協働しやすい。

② 子どもたちの成長見える化する5つの羅針盤

ア 未来を拓く創造力（主体的に考え、発想を広げ未来を創造する力）

固定観念にとらわれず、多角的に物事を捉え、新たな価値を生み出す力を育てます。AI時代にこそ、人間がゼロから答えを創り出す力です。

【育成する非認知能力）

- 創造性 ⇒ 新しいアイデアを生み出し、未来を切り拓く思考力。
- 挑戦力 ⇒ 正解のない問いに立ち向かう実践力。
- 意欲 ⇒ 自発的に考え、行動する学びのエネルギー。

イ 自分軸で進む判断力（自己理解を深め、自分の価値観で主体的に行動する力）

自分の感情や思考を冷静に見つめ、コントロールする力を育てます。自己理解を深め、将来を切り拓くための内面的な基盤を形成します。

【育成する非認知能力）

- 自己肯定感 ⇒ 自分の価値を信じ、安心して学びに向かう原動力。
- 意欲 ⇒ 目標に向かうエネルギーを引き出し、自律的な学習を促す。
- セルフコントロール ⇒ 感情や行動を調整し、学びを安定させる中心的な力。
- メタ認知 ⇒ 自分の学びを振り返り、改善に結びつける思考力。
- 規範意識 ⇒ 社会や学校のルールを守り、行動を律する力。

ウ 挑戦を貫く実践力（失敗や困難に向き合い、粘り強く挑戦を続ける力）

未知の課題に向かう勇気を育み、失敗から学び、何度も挑戦し、やり抜く強さを培います。

【育成する非認知能力）

- 意欲 ⇒ 新しい挑戦に向かう原動力となる活力。
- レジリエンス ⇒ 失敗や困難に直面しても立ち直り、再挑戦する力。
- 創造性 ⇒ 新しい解決策を考え、未知の課題に挑む柔軟な思考。
- 挑戦力 ⇒ 躊躇せず困難に立ち向かう勇気と行動力。

エ 協働で創る共働力（仲間と協力し、新しい価値や成果を生み出す力）

多様な人と意見を交わし協力する力を養い、共同で新しい価値を生み出す楽しさを体験します。

【育成する非認知能力）

- 他者信頼 ⇒ 仲間を信じ合い、安心して協働できる力。
- 協働性 ⇒ 共通の目標に向かい、実際に力を合わせる実践力。
- 共感性 ⇒ 相手の考え方や気持ちを理解し、深い対話を生む力。
- コミュニケーション ⇒ 意見を伝え、相手を理解する基本的スキル。

オ 共感で動かす連携力【連携力向上】（思いやりや協力をもとに社会参画する力）

他者の立場や気持ちを想像し、社会のルールを理解してより良い関係を築く基礎を養います。

【育成する非認知能力）

- 共感性 ⇒ 他者の気持ちを理解し、人間関係を円滑にする力。
- 規範意識 ⇒ 社会や集団のルールを守り、共に生きる力を育む。

③ 5つの羅針盤が切り拓く、未来の学校の新基準

未来の学校は、子どもたちの成長を導く5つの羅針盤を教育の中心に据え、全ての教育活動の基盤とすることにより、次世代に求められる新たな学校教育の標準として位置づけられるべきと考えています。変化の激しい社会において、自ら考え、学び、行動できる力を確実に育成し、未来を切り拓く力を持った子どもを育てる学校として、この教育モデルを新基準としての最適解と考え、実践へと結びつけます。

④ 本校における非認知能力の定義

自己肯定感	「失敗しても、自分には価値がある」「自分のことが好き」「できないことがあっても、まあ大丈夫」などの「自分には価値がある」「自分はこれでいい」と自分自身を前向きに受け止められる感覚のことです。
意欲	目標に向かって自発的に、かつ粘り強く取り組むための内面的な力であり、非認知能力の中核をなす心理的特性の一つです。
セルフコントロール	自分の気持ちや行動を、自分で上手にコントロールする力のことで、「怒ったときにすぐに怒鳴らずに、落ち着いて言葉で伝える」や「遊びたい気持ちをおさえて、先に宿題を終わらせる」、「失敗してイライラしても、すぐにあきらめずにやり直す」ことです。
メタ認知	例えば、「学習中に『このやり方で本当に覚えられているかな?』と自問する」ことや「問題を解いているときに『今のアプローチは正しいか?』『ほかにもっと効率的な方法はないか?』と考えるなど、自分を客観的に見つめる力のことです。
創造性	新しいアイデア、視点、解決策、芸術作品、または概念を生み出す能力や特性のことを指します。これは、人間の思考や表現の中でも特に独自性や革新性が求められる活動に関連しています。
レジリエンス	困難や逆境に直面したときに、心が折れずに立ち直る力のことです。例えば、失敗や挫折をしても、前向きに立ち直る力、不安やストレスに押しつぶされず、適応していく力、苦しい状況でも希望や目標を見失わない力のことです。
他者信頼	困っているときに誰かに助けを求めたり、チームでの協働を前向きに行えたりするなど、他人が誠実で善意を持っており、協力してくれる存在であると信じる傾向や態度のことです。
共感性	「他人の感情を感じ取って、まるで自分のことのように心を動かされる力」「他人の立場や視点を理解する力」のことで、感情や思考を理解し、他者に対して思いやりを持って接する力のことです。
コミュニケーション	単に言葉を話す力ではなく、「他人と上手に関わりながら、自分の気持ちや考えを伝えたり、相手の話を理解したりする力」のことで、学校や仕事、社会の中で信頼されなど、人生のいろんな場面で役に立つ「土台」となる力です。
協働性	他者と協力し、共通の目標達成に向けて建設的に関わる能力を指します。単に人と一緒に作業するだけでなく、お互いの意見を尊重し、役割を分担し、課題を解決していく過程全体を含みます。
規範意識	単に社会のルールやきまりを覚えること以上の、より深い意味を持つ概念であり、道徳や倫理といった普遍的な価値を理解し、それを自らの行動の指針として積極的に守ろうとする意識や態度を総合的に指します。